

29年度のスタートに問う

「夢」はあるか

二度のどか雪に見舞われた冬でしたが、桜の季節を迎えました。大雪に耐えきれず折れてしまった梅の木も見事な花を咲かせました。樹皮だけになっても花を咲かせるその生命力に勇気を与えられたような気がします。

さて、29年度の初めに当たり君たちにひとつの問いかけをしたいと思います。

それは、「夢はあるか」ということです。

人間はいくつになっても、夢や目標といった自分が目指すべきものがないと、なかなか元気が出ないものだと思います。逆に〇〇になりたいとか、〇〇の資格を手に入れたいという夢や目標があれば頑張れるということです。漠然とした表現になりますが、小学生の時は夢を持ち、中学生になるともう少し現実的な目標を持ち、高校生になるとその目標達成のための準備にとりかかるといえるか、目標に一步踏み出す時ではないかと考えています。たとえば、小学生の時には宇宙飛行士になりたいと夢を抱いていたが、中学生になりそれが極めて難しいことだと理解し、少し現実的に考え、でも何かを操縦したいという想いがあり、飛行機のパイロットや新幹線の運転士になることに目標を設定するようになる場合が考えられます。高校生になると、パイロットや新幹線の運転士になるにはどうしたらよいか、具体的な進路を考え、その実現に向けて勉強するようになるでしょう。目標があるから意欲が湧き、がんばれるわけです。これは職業だけでなく、趣味やボランティアや地域での活動でも同じです。

一番わかりやすいのは、部活動でしょう。「但馬大会を勝ち抜いて神戸の県大会に出るぞ」と目標に向かう時、がんばれるし、その練習の結果、技術や実力がつくのです。

出石出身のオリンピックのメダリストに井上香織さんがいます。偶然ですが、昨年10月井上さんを招いて村岡でバレーボール教室を開きました。その時彼女が言っていたことは「夢を持ち続ける」ということでした。井上香織さんは福住小学校でバレーボールを始め出石中学校で県大会3位になり、氷上高校で全国大会へ出場し、全日本高校選抜にも選ばれました。氷上高校卒業後Vリーグのデンソーで活躍し、2009年全日本代表選手となり2012年ロンドンオリンピックで銅メダルを獲得しました。立派な経歴ですが、彼女のすごさは、日本代表入りが27歳、ロンドンオリンピックは30歳の時と、女子選手としては大変遅咲きだったということです。しかもオリンピックを前に肩を痛め、二度の手術に耐えての出場でした。彼女は夢を最後の最後まで持ち続けたから頑張れたのです。そして、やりつくした彼女は一昨年33歳で引退しました。



実は、井上さんのおよそ100年前に出石出身の偉人が夢や目標を持つことの大切さを記しています。出石高校のすぐ目の前に生家のある加藤弘之さんです。加藤弘之は出石の谷山で生まれ、藩校弘道館に学び、その後江戸で佐久間象山らに学びました。出石藩士から幕府直属の下臣となり、開成所などを経て、日本最初で唯一の大学である東京大学の総理（現在の学長に相当）となりました。彼はすでに幕末に日本で最初にヨーロッパの立憲政治を紹介し、近代日本の政治制度成立に大きく貢献したとして評価されています。その彼が、次のように言っています。「決して小成をもって安んじてはならぬ。もっとも、大成を期したからとしても、才智が足らなければいたしかたがないが、ただその志は十分に持っておらなければならぬのである」。大きな夢をもったからといっても実現できるとは限らないが、強い意志や夢がなくては始まらないということです。野球少年が皆甲子園に出られるわけではありませんが、甲子園に行くという気概がなくては出られるわけがないのです。

さて、出石と関わりのある有名な方の夢の話をしました。私としては君たちの夢や目標を聞かせてもらいたいと思います。始業式後のホームルームで質問用紙を配りますから答えてください。君たちが何に頑張ろうとしているのか、今後の参考にさせてもらいたいと思います。

最後になりますが、本日午後より新入生が入学式を迎えます。出石高校生の先輩として、優しくリードしてあげてほしいと思います。また、一学期は但馬総体、県総体と続きます。3年生にとっては高校生活最後の大会です。また、3年生は進路の大切なときです。君たちが全力で夢に向かい目標に向かって充実した一学期であることを祈念します。